

多岐息づく伝統技術—漆塗り

出石地域には、先代から受け継いで半世紀以上も漆塗りをしている職人がいます。近年では、精製技術の発達により、身の周りのものは機械で簡単に作れます。このような中、今日においても残る漆塗り師の伝統技術。漆製品の良さはどこにあるのでしょうか。職人とともに紹介します。

室 雅晴さん(73歳)出石町福住



但馬地域に残る

漆塗り師

器を手に取り、窓から差し込む光に当て、光沢を確認する。色や塗りにむらがあればやり直し。少しの妥協も許さない。漆塗り師の室さんの1日は、前日に施した漆製品の仕上がりチェックから始まります。

室さんは、家屋の床や書院、大黒柱のほか、仏壇や神社、寺院などに漆を塗っています。また、新品だけでなく、得意先からの依頼を受けて但馬地域内から寄せられる漆製品の修復塗りも引き受けている但馬唯一の漆塗り師です。

滑らかで

深みのある漆

漆の塗料は、漆の木の樹皮を傷つけ、にじみ出た樹液を精製したものです。漆がほかの塗料に比べて優れている所は、酸やアルカリ、アルコールなどに劣化しない耐薬品性を備えているほか、天然塗料なので有害物質を含まないことです。滑らかで深みのある美しい漆の塗膜は、年月が経つほどに艶を増し、馴染んでいく。時に「漆は生

器を手に取り、窓から差し込む光に当て、光沢を確認する。色や塗りにむらがあればやり直し。少しの妥協も許さない。漆塗り師の室さんの1日は、前日に施した漆製品の仕上がりチェックから始まります。



きている」と形容されるほど、風合いを楽しむことができる昔からの伝統技術です。また、防腐・抗菌効果もあり、昔の人々は、こういった理にかなった素晴らしい技術を考え出し、それが今日に息づいています。

単純作業の繰り返し  
そこに奥深さが

漆塗りは、塗っては乾かし、乾かしては塗るの繰り返しです。ハケを使って滑らかに均一に塗っていくことはとても難

漆塗りは、塗っては乾かし、乾かしては塗るの繰り返しです。ハケを使って滑らかに均一に塗っていくことはとても難



▲滑らかな手の動きは熟練の技

しいものです。室さんは「良い物を作るには、目を離してはいけません」と製品を管理しやすいように、自宅に隣接する少し広めの作業場に工房を構えています。漆を塗ったまま放置しておくと塗料が垂れ、塗り面にむらができるため、乾くまでは裏返したり傾けたりと定期的に角度を変えることが必要です。室さんは、就寝中でも定期的に起きて作品の角度を変えることもあります。

完成のない物づくりに  
自分らしさを表現

「手間と時間のかかる漆塗りは根気のいる作業ですが、手塩にかけた分、作品が応えてくれます。ものづくりは、これで「完成」という到達点はありませんが、自分らしさを表現していけるところが魅力ですね」と笑顔で語る室さん。そして表情を一変し「これからは、培った技術を絶やさぬよう、力の続く限り伝統を守り続けていきたいです」と半世紀以上の職人人生を語り、使い込んだ手を握り締め

# 高橋保育園 (但東)

〈園児14人〉



自然豊かな農山村地帯に位置する高橋保育園(但東町久畑)。この区は、江戸時代に関所が設けられ、山陰と京都を結ぶ街道の宿場町として栄えていた歴史があります。  
2月3日、節分の豆まきが行われましたので、その様子をのぞいてみました。

## お面作って準備万端

園児らは、鬼のお面や豆を入れる小箱などを一生懸命作って準備し、この日が来るのを心待ちにしていました。



を退治しよう」と園児たちが考えた、鬼のやつつけ方は、豆を投げて鬼の後ろからキックです。

そのとおりにできるかな？

## 紙芝居に登場する「コワイ鬼」

先生が読む紙芝居の「おにのかたながり」では、怖い顔の赤鬼が村人を脅したり、火を吹いたりしています。紙芝居が終わると「怖かった」と園児たちは胸をなでおろしていました。

続いて、鬼のお面をかぶった園児らは、先生と一緒に歌を歌ったり、踊ったりと和やかに



踊ったりと和やかに歌を歌ったり、踊ったりと和やかに

な雰囲気です。楽しい時間を過ごしていると、外から鬼が入ってきた！

## 外から鬼が入ってきた！



突然、外から手に金棒を持った青鬼が入ってきました。大きな声で「怖い」と園児らは逃げ回ったり、勇敢に青鬼に向かって豆を投げつけたり、園内は泣き声や笑い声が響いて大騒ぎ。先生と一緒に「鬼は外！福は内！」と豆を投げると青鬼が退散していきま



した。その後、福の神が登場すると、園児らの表情は一変して笑顔に。福の神から鬼退治のご褒美をお菓子をもらって楽しい1日を過ごしました。

## 鬼が去って福の神が登場「もう安心だ」

その後、福の神が登場すると、園児らの表情は一変して笑顔に。

福の神から鬼退治のご褒美をお菓子をもらって楽しい1日を過ごしました。



## 顔輪笑の

但馬地域で唯一の新体操サークル

## 『プチアミ』(日高)

日高地域で活動している新体操サークルの「プチアミ」は、毎週木曜日午後4時から6時まで、国府地区公民館で練習に励んでいます。

同会は、平成20年に発足し、現在、幼稚園児から小学生までの20人が所属しています。

代表の森谷典子さん(日高町上石)は「新体操は体が柔軟になり、音楽に合わせて体を動かすのでリズム感も養えます」と話します。

新体操は、体全体を使って姿を美しく見せるスポーツです。子どものころから始めると柔軟な体を作り、美しい立ち居振る舞いができるようになります。

同会では、リボンやフープを使って本格的な練習にも取り組んでいます。

かわいらしいレオタードを着た園児たちが練習に励んでいます。



ド姿の子どもたちは、森谷さんの指導の下、ポジション(足の立ち位置)やアラベスク(片足を後ろに上げて片足で立つポーズ)、柔軟体操、リズムダンスの練習に励んでいました。「近い将来、この会の子どもたちの中から世界で活躍する選手が育ってくれるといいですね」と森谷さんは、頭の中に広がる夢を語っていました。

プチアミは、3月22日(日)に朝来市和田山町のジュピターホールで開催される発表会で、日ごろの練習の成果を披露します。ぜひ、ご覧ください。

会への問合せは、森谷さんまで。 ☎42-51149